

# 3 システムの管理

この章では、「Management Console」を利用した設定・管理について説明します。

# Management Consoleが提供するサービス

ネットワーク上のクライアントマシンからWebブラウザを介して表示されるのが「Management Console」です。Management Consoleからサーバのさまざまな設定の変更や状態の確認ができます。

## 利用者の権限

Management Consoleは、以下のサービスを提供します。

- **システム管理者用サービス**

  サーバの管理者は、システム管理者と呼ばれ、サーバの完全な管理権限を持ちます。仮想ドメインの追加・削除やSSLの設定、サービスの起動・停止、ネットワークの設定など、さまざまな作業が可能です。

  システム管理者は実ドメインのメンバーであり、ユーザー名は「admin」です。

  サーバでは、ドメイン管理者はドメインごとに1人設定できますが、システム管理者は1人だけです。

  システム管理者が利用できるメニューについては次ページで説明しています。

## Management Consoleのセキュリティモード

Management Consoleでは日常的な運用管理のセキュリティを確保するため、Management Consoleに3つのセキュリティモードをサポートしています。

- **レベル0（なし）**

  パスワード認証も暗号化も無しでManagment Consoleを使用することができます。

  危険ですので、このモードはデモや評価の場合のみにご使用ください。

- **レベル1（パスワード）**

  パスワード認証による利用者チェックを行います。ただし、パスワードや設定情報は暗号化されません。

- **レベル2（パスワード + SSL）**

  パスワード認証に加えて、パスワードや設定情報をSSLで暗号化して送受信します。自己署名証明書を用いていますので、ブラウザでアクセスする際に警告ダイアログボックスが表示されますが、[はい]ボタンなどをクリックしてください。

デフォルトの設定では、「レベル1」となっています。セキュリティレベルを変更する場合は、Management Console画面の[Management Console]アイコンをクリックして設定を変更してください。また、同画面で操作可能ホストを設定することにより、さらに高いレベルのセキュリティを保つことができます。

# システム管理者のメニュー

システム管理者が利用できるさまざまなサービスの設定や操作方法などを説明します。

## Management Consoleへのログイン

システム管理者は、Management Consoleを利用することにより、クライアント側のブラウザからネットワークを介してManagement Consoleのあらゆるサービスを簡単な操作で一元的に管理することができます。以下に各セキュリティモードにおけるアクセス手順を示します。




- **Management Consoleへのアクセスには、プロキシを経由させないでください。**
- **レベル2では、HTTPSプロトコル、ポート番号50453を使用します。**



### レベル0の場合

1. クライアント側のブラウザを起動する。
2. URL入力欄に「http://<本装置に割り当てたIPアドレスまたはFQDN>:50090/」と入力する。
3. 「Management Console」画面で、[システム管理者ログイン]をクリックする。




**危険ですので、このモードはデモや評価の場合のみにご使用ください。**

### レベル1の場合

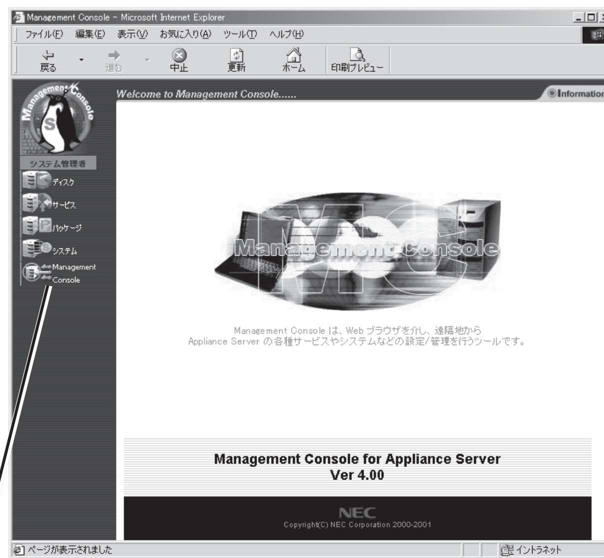
1. クライアント側のブラウザを起動する。
2. URL入力欄に「http://<本装置に割り当てたIPアドレスまたはFQDN>:50090/」と入力する。
3. 「Management Console」画面で、[システム管理者ログイン]をクリックする。
4. ユーザー名とパスワードの入力を要求されたら、ユーザー名には「admin」、パスワードにはセットアップ時に指定した管理者パスワードを入力する。

### レベル2の場合

1. クライアント側のブラウザを起動する。
2. URL入力欄に「https://<本装置に割り当てたIPアドレスまたはFQDN>:50453/」と入力する。
3. 警告ダイアログボックスが表示されたら、[はい]ボタンなどをクリックして進む。
4. [Management Console]画面で、[システム管理者ログイン]をクリックする。
5. ユーザー名とパスワードの入力を要求されたら、ユーザー名には「admin」、パスワードにはセットアップ時に指定した管理者パスワードを入力する。

Management Consoleにログインできたら、次に示す画面が表示されます。

### システム管理者用トップページ




ブラウザ上から設定した項目(アイコン)をクリックすると、
それぞれの設定画面に移動することができる。

### 【Management Consoleの画面構成】

■ システム管理者用トップページ

- ディスク*
- サービス
- パッケージ*
- システム
- Management Console

* 本書では説明していません。Management Consoleのオンラインヘルプを参照して操作してください。

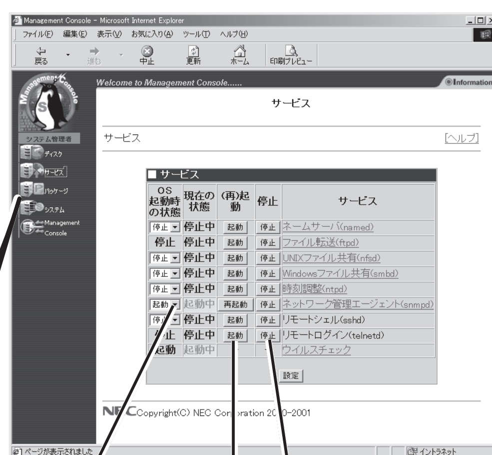



**初回ログイン時は、自動的にドメイン情報の初期化が行われます。初期化終了後にManagement Consoleのサーバが再起動されますので、画面の指示に従ってしばらく待った後、そのまま操作を再開してください。**
**サーバの再起動が完了するまでは、画面(アイコンなど)を操作したり、ブラウザを終了させたりしないように注意してください。**
**通常の操作においても、操作に対する応答が確実に返ってきた後に次の操作を行うようにしてください。応答が返る前に他の画面(アイコンなど)を操作したり、ブラウザを終了させたりしないように注意してください。**

# サービス

システム管理者は、Management Consoleからファイル転送(ftpd)、Windowsファイル共有(smbd)、ネットワーク管理エージェント(snmpd)といったサービスの設定ができます(設定項目の詳細については、画面上の[ヘルプ]をクリックしオンラインヘルプを参照してください。)




サービスを停止する。

サービスを起動、または再起動する。

システム起動時に、そのサービスを自動的に起動するかどうかを示す。変更する場合は選択肢を変更して[設定]ボタンをクリックする。
現在の状態が常に起動時の状態として設定されているものについては、変更ができないようになっている。

出荷時の設定では、各サービスの状態は以下のようになっています。必要に応じて設定を変更してください。

| サービス名 | 状態 | サービス名 | 状態 |
|---|---|---|---|
| ネームサーバ(named) | 停止 | ネットワーク管理エージェント(snmpd) | 起動 |
| ファイル転送(ftpd) | 停止 | リモートシェル(sshd) | 停止 |
| UNIXファイル共有(nfsd) | 停止 | リモートログイン(telnetd) | 停止 |
| Windowsファイル共有(smbd) | 停止 | ウイルスチェック | 起動 |
| 時刻調整(ntpd) | 停止 | | |



運用形態によって異なる場合がありますので、注意してください。

# ネームサーバ(named)

ネームサーバ(named)を起動するための設定について操作例を示しながら説明します。

## 実ドメインを管理するDNSマスタサーバとして運用する場合の操作例

ここでは実ドメインを「realdomain.co.jp」、ホスト名を「host」、IPアドレスを「192.168.1.1」、サブネットマスクを「255.255.255.0」、メールサーバを「host.realdomain.co.jp」(優先度0)と仮定して解説します。お使いになる環境に合わせて読み替えてください。

### ● Zoneファイルの追加

正引きの場合

1. [サービス]の[ネームサーバ(named)]をクリックし、[■ネームサーバの設定]の[操作]欄にある[追加]ボタンをクリックする。

■ ネームサーバの設定

| 操作 | Zoneタイプ | Zone名 |
| --- | --- | --- |
| 追加 | | |
| 編集 | hint | . |
| 編集 プロパティ | master | 0.0.127.in-addr.arpa |

Option設定 named.conf編集

2. [■Zone追加]で[ドメイン名]にチェックをし、[realdomain.co.jp]と入力して[設定]ボタンをクリックする。

■ Zone追加
ドメイン名 realdomain.co.jp
ネットワークアドレス
ネットワークアドレス長 8ビット 16ビット 24ビット
Zoneファイル名(オプション)
設定

**重要**

**作成されるZoneファイル名を指定したい場合は、[Zoneファイル名(オプション)]にチェックをし、ファイル名を入力してください。通常はファイル名を設定する必要はありません。ファイル名はZone追加後、各Zoneのプロパティからも変更できます。**

逆引きの場合

1. [サービス]の[ネームサーバ(named)]をクリックし、[■ネームサーバの設定]の[操作]欄にある[追加]ボタンをクリックする。

■ ネームサーバの設定

| 操作 | Zoneタイプ | Zone名 |
| --- | --- | --- |
| 追加 | | |
| 編集 | hint | . |
| 編集 プロパティ | master | 0.0.127.in-addr.arpa |

Option設定 named.conf編集

2. [■Zone追加]で[ネットワークアドレス]にチェックをし、[192.168.1.0]と入力し、[ネットワークアドレス長]を[24ビット]にチェックをして[設定]ボタンをクリックする。

**重要**

**[■Zone追加]からの設定は、CIDRには対応していません。CIDRを使用したい場合は、named.conf編集から直接named.confを編集してください。**

## ● Zoneファイルの編集

正引きの場合

1. [■ネームサーバ(named)]でZone名[realdomain.co.jp]の左にある[編集]ボタンをクリックする。

2. [■Zoneファイル編集]で[操作]欄にある[追加]ボタンをクリックする。

3. [■レコード追加]で以下のように入力して各レコードの作成を行い、[設定]ボタンをクリックする。(優先度は、MXレコードのみの入力になります。)

   NSレコード:
   レコードタイプ[NSレコード]、
   値[host.realdomain.co.jp.]
   (所有者は空白)

   MXレコード:
   レコードタイプ[MXレコード]、
   値[host.realdomain.co.jp.]、
   優先度[0](所有者は空白)

   Aレコード:
   所有者[host]、レコードタイプ[Aレコード]、値[192.168.1.1]

   CNAMEレコード:
   所有者[www]、レコードタイプ[CNAMEレコード]、値[host.realdomain.co.jp.]

**重要**

- **NSレコードは、必ず指定してください。**
- **host.realdomain.co.jpはホスト名、www.realdomain.co.jpは別名になります。**

逆引きの場合

1. [■ネームサーバ(named)]でZone名[1.168.192.IN-ADDR.ARPA]の左にある[編集]ボタンをクリックする。

■ ネームサーバの設定

| 操作 | | | Zoneタイプ | Zone名 |
|---|---|---|---|---|
| 追加 | | | | |
| 編集 | | | hint | . |
| 編集 | プロパティ | | master | 0.0.127.in-addr.arpa |
| 編集 | プロパティ | 削除 | master | realdomain.co.jp |
| 編集 | プロパティ | 削除 | master | 1.168.192.IN-ADDR.ARPA |

Option設定　named.conf編集

2. [■Zoneファイル編集]で[操作]欄にある[追加]ボタンをクリックする。

■ Zoneファイル編集

Zone名:1.168.192.IN-ADDR.ARPA

SOA編集

| 操作 | 所有者 | レコードタイプ | 設定値 |
|---|---|---|---|
| 追加 | | | |

3. [■レコード追加]で以下のように入力してNSレコードとPTRレコードの作成を行い、[設定]ボタンをクリックする。

NSレコード:
レコードタイプ[NSレコード]、
値[host.realdomain.co.jp.]

PTRレコード:
所有者[1]、
レコードタイプ[PTRレコード]、
値[host.realdomain.co.jp.]

■ レコード追加

Zone名:1.168.192.IN-ADDR.ARPA

| 所有者 | レコードタイプ | 値 | 優先度 |
|---|---|---|---|
| | NSレコード | host.realdomain.co.jp. | |
| 1 | PTRレコード | host.realdomain.co.jp. | |
| | Aレコード | | |
| | Aレコード | | |
| | Aレコード | | |
| | Aレコード | | |
| | Aレコード | | |
| | Aレコード | | |
| | Aレコード | | |
| | Aレコード | | |

設定

**重要**

- [■Zoneファイル設定確認・自由設定]で、直接Zoneファイルの編集をすることもできます。その場合は、十分注意して編集してください。DNSの設定を壊したり、ManagementConsoleから編集できなくなる恐れがあります。
- [■Zoneファイル編集]に表示されるレコードは、次のレコードタイプのみです。

  A、PTR、CNAME、NS、MX、HINFO、TXT、WKS

  これら以外のレコードタイプを指定したい場合は、[■Zoneファイル設定確認・自由設定]欄で指定してください。
- FQDN(フルドメイン)で指定する場合は、必ず最後にドット(.)を記述してください。
- masterサーバのZoneファイルの編集が終わったらSOA編集からシリアル番号を増やしてください。
- hintファイルは、通常編集するファイルではないため、SOA編集、レコードの追加、編集、削除ボタンは表示されません。
- レコードの編集、またSOA編集について、詳しくはManagement Consoleのオンラインヘルプを参照してください。

- ## Zoneプロパティの編集

masterとslaveの切り替え、allow-query、allow-transfer等の Optionの設定が行えます。詳しくは、Management Consoleのオンラインヘルプを参照してください。

Zoneプロパティ

Zone名:realdomain.co.jp

Zoneタイプ ◉master ○slave

masters

allow-query

allow-transfer

その他のOption設定

Zoneファイル名 g.realdomain.co.jp

設定

- ## Option設定

このDNSサーバが管理するすべてのZoneに対してOptionを設定します。

ここで設定したOptionと各Zoneのプロパティから設定したOptionでそれぞれ異なる設定をした場合には、各Zoneで設定したOpitonが優先されます。詳しくは、Management Consoleのオンラインヘルプを参照してください。

Option設定

forwarders

☐ forward only

☐ query-source address * port 53

その他のOption設定

```
/*
* If there is a firewall between you and
nameservers you want
* to talk to, you might need to uncomment
the query-source
* directive below.  Previous versions of
BIND always asked
```

設定

- ## named.conf編集

named.confファイルの現在の設定内容を表示・編集できます。

直接、named.confファイルを編集する場合、編集が終わったら下の設定ボタンを押して設定を反映します。

**重要**

**named.confファイルを直接編集する場合は、十分注意して編集してください。DNSの設定を壊したり、ManagementConsoleから編集できなくなるおそれがあります。**

named.confファイル編集

編集画面

```
// generated by named-bootconf.pl

options {
        directory "/var/named";
        /*
         * If there is a firewall between you and
nameservers you want
         * to talk to, you might need to uncomment the
query-source
         * directive below.  Previous versions of BIND
always asked
         * questions using port 53, but BIND 8.1 uses an
unprivileged
         * port by default.
         */
        // query-source address * port 53;
};

//
// a caching only nameserver config
//
zone "." {
        type hint;
        file "named.ca";
};

zone "0.0.127.in-addr.arpa" {
        type master;
        file "named.local";
};
```

設定

- **ネームサーバの起動**

[システム]メニューの[ネームサーバ(named)]の左にある[起動]ボタンをクリックする。

■ サービス

| OS起動時の状態 | 現在の状態 | (再)起動 | 停止 | サービス |
|---|---|---|---|---|
| 起動 | 起動中 | 再起動 | 停止 | Webサーバ(httpd) |
| 起動 | 起動中 | 再起動 | 停止 | メールサーバ(sendmail) |
| 起動 | 起動中 | 再起動 | 停止 | メールサーバ(popd) |
| 起動 | 起動中 | 再起動 | 停止 | メールサーバ(imapd) |
| 起動 | 起動中 | 再起動 | 停止 | メールサーバ(mail-httpd) |
| 停止 | 停止中 | 起動 | 停止 | ネームサーバ(named) |
| 起動 | 起動中 | 再起動 | 停止 | ファイル転送(ftpd) |
| 停止 | 停止中 | 起動 | 停止 | UNIXファイル共有(nfsd) |
| 停止 | 停止中 | 起動 | 停止 | Windowsファイル共有(smbd) |
| 停止 | 停止中 | 起動 | 停止 | 時刻調整(ntpd) |
| 起動 | 起動中 | 再起動 | 停止 | ネットワーク管理エージェント(snmpd) |
| 停止 | 停止中 | 起動 | 停止 | リモートシェル(sshd) |
| 停止 | 停止中 | 起動 | 停止 | リモートログイン(telnetd) |

設定

- **ネームサーバの設定**

[システム]メニューの[ネームサーバ(named)]の[OS起動時の状態]から[起動]を選択し、[設定]ボタンをクリックする。

起動時にネームサーバが動作するように設定します。

■ サービス

| OS起動時の状態 | 現在の状態 | (再)起動 | 停止 | サービス |
|---|---|---|---|---|
| 起動 | 起動中 | 再起動 | 停止 | Webサーバ(httpd) |
| 起動 | 起動中 | 再起動 | 停止 | メールサーバ(sendmail) |
| 起動 | 起動中 | 再起動 | 停止 | メールサーバ(popd) |
| 起動 | 起動中 | 再起動 | 停止 | メールサーバ(imapd) |
| 起動 | 起動中 | 再起動 | 停止 | メールサーバ(mail-httpd) |
| 起動 | 停止中 | 起動 | 停止 | ネームサーバ(named) |
| 起動 | 起動中 | 再起動 | 停止 | ファイル転送(ftpd) |
| 停止 | 停止中 | 起動 | 停止 | UNIXファイル共有(nfsd) |
| 停止 | 停止中 | 起動 | 停止 | Windowsファイル共有(smbd) |
| 停止 | 停止中 | 起動 | 停止 | 時刻調整(ntpd) |
| 起動 | 起動中 | 再起動 | 停止 | ネットワーク管理エージェント(snmpd) |
| 停止 | 停止中 | 起動 | 停止 | リモートシェル(sshd) |
| 停止 | 停止中 | 起動 | 停止 | リモートログイン(telnetd) |

設定

以上で「host.realdomain.co.jp」、「www.realdomain.co.jp」の名前解決が可能となります。

## DNSスレーブサーバとして運用する場合の操作例

新しく追加されたZoneは初期状態ではmasterとして設定されます。slaveサーバを追加したい場合は、masterとして追加した後、そのZoneのプロパティからslaveとして設定し直してください。

1. 「Zoneファイルの追加」を参照して、slaveサーバとなるZoneを追加する。
2. [■ネームサーバ(named)]の[操作]欄にある[プロパティ]ボタンをクリックする。
3. [■Zoneプロパティ]の[Zoneタイプ]の[slave]にチェックし、[masters]にmasterを設定しているDNSサーバのIPアドレスを設定する。

**重要**

**slaveとして設定し直した場合、元となるmasterは削除されます。**

詳細はオンラインヘルプを参照してください。

■ Zoneプロパティ
Zone名:xxxx.xxxx.xxxx.xxxx
Zoneタイプ ○master ◉slave
masters 192. 168. 1. 1;
allow-query
allow-transfer
その他のOption設定
Zoneファイル名 g.xxxx.xxxx.xxxx.xxxx
設定

# ファイル転送(ftpd)

サーバをFTPサーバとして利用される場合、Management Consoleのファイル転送(ftpd)画面にて、anonymous FTPのアクセス権、警告の有無に関する設定ができます。

■ ファイル転送(ftpd)
匿名利用(anonymous FTP)
アクセス権: □ 上書きを許可する
□ 名前変更を許可する
□ 削除を許可する
パスワードの形式チェック:
○ しない
◉ 警告だけ出す
○ ログインさせない
設定



- anonymous FTP

  anonymous FTP用のディレクトリは、/home/web/<ドメイン名>/ftpになります(ファイルの置場所は、/home/web/<ドメイン名>/ftp/incoming配下)。anonymousユーザーは、この/home/web/<ドメイン名>/ftp以下のディレクトリにのみアクセスが可能となります。

- anonymous ftpでは、「/ftp/incoming」下より一階層下のディレクトリまでファイルの作成を行うことができます。二階層以上のディレクトリにはファイルのアップロードができません。

# UNIXファイル共有(nfsd)

NFSはNetwork File Systemの略で、Windowsのファイル共有と同様、サーバ上のファイルシステム(ディスク)をクライアントから直接読み書きするための仕組みです。

■ エクスポートするファイルシステムの一覧

| 操作 | ディレクトリ | マウント可能なマシン | アクセス権 | アカウントマッピング |
|---|---|---|---|---|
| 追加 | | | | |
| 編集 削除 | /etc/exports | linuxsbu.np.bs1.fc.nec.co.jp | 読み込み | rootのみマッピング |

[追加]ボタンをクリックすると、[エクスポートするファイルシステムの追加]画面に移行し、エクスポートするファイルシステムの設定を行うことができます。
既存のエクスポート設定に対して[編集]ボタンをクリックすると、設定を変更することができます。

■ エクスポートするファイルシステムの追加

ディレクトリ:
マウント可能なマシン:
アクセス権: ⊙読み込み ○読み書き
アカウントマッピング:
○マッピングしない(そのまま)
⊙rootのみ下記のIDにマッピングする
○全員を下記のIDにマッピングする
ユーザID:(省略可)
グループID:(省略可)
設定 戻る

**重要**

- **NFSを用いると、クライアントがサーバのファイルシステムをローカルのファイルシステムと同様に扱うことができますが、設定内容によってはセキュリティ上の弱点を抱える可能性があります。特に、アカウントマッピングの[マッピングしない(そのまま)]を有効にすることは、特に必要でない限りすべきではありません。**
- **設定項目の詳細については、画面上の[ヘルプ]をクリックしオンラインヘルプを参照してください。**
- **事前に[システム]→[セキュリティ]→[TCP Wrapper]で、サービスプログラムportmapへのアクセスを許可するホストを追加しておかなければなりません。**

# Windowsファイル共有(smbd)

Sambaはそのマシン上のリソース(ユーザーのホームディレクトリやWebディレクトリ)をWindowsクライアントマシンからアクセスできるようにします。
サーバでsmbdを使用しWindowsとのファイル共有を行う場合、Management ConsoleのWindowsファイル共有(smbd)画面にて、ワークグループ名(NTドメイン名)、セキュリティ、名前解決に関する設定ができます。
詳しくはManagement Consoleのオンラインヘルプを参照してください。

■ 基本設定

ワークグループ名:(NTドメイン名) WORKGROUP
コメント: Samba %v
セキュリティ: ○共有時認証 ⊙ログイン時認証
名前解決: ○自サーバで解決を行う
○WINSサーバで解決を行う
⊙上記以外の解決方法
設定

■ 共有一覧

| 操作 | 共有名 | ディレクトリ | コメント |
|---|---|---|---|
| 追加 | | | |
| | ユーザのホームディレクトリ | | %U's Home directory |
| 編集 削除 | printers | /var/spool/samba | All Printers |
| 編集 削除 | private | /home/samba/private | Private space ; one can write one's own files. |
| 編集 削除 | public | /home/samba/public | Public space; anyone can write any files. |
| 編集 削除 | tmp | /tmp | Read only file space |

## 時刻調整(ntpd)

NTPサーバはネットワーク上で時刻の同期をとる機能を提供します。詳しくはManagement Consoleのオンラインヘルプを参照してください。




**システムに設定されている時刻との誤差が大きくなると、NTPサーバから正常に設定することができなくなります。あらかじめ［日付・時刻］で正しい日時を設定の上、NTPサーバをお使いください。**

## ネットワーク管理エージェント(snmpd)

ネットワーク管理エージェントは、NECのESMPROシリーズやSystemScopeシリーズなどの管理マネージャソフトから、そのマシンを管理する際に必要となるエージェントソフトです。管理マネージャからの情報取得要求に応えたり、トラップメッセージを管理マネージャに送信します。詳しくはManagement Consoleのオンラインヘルプを参照してください。

## リモートシェル(sshd)

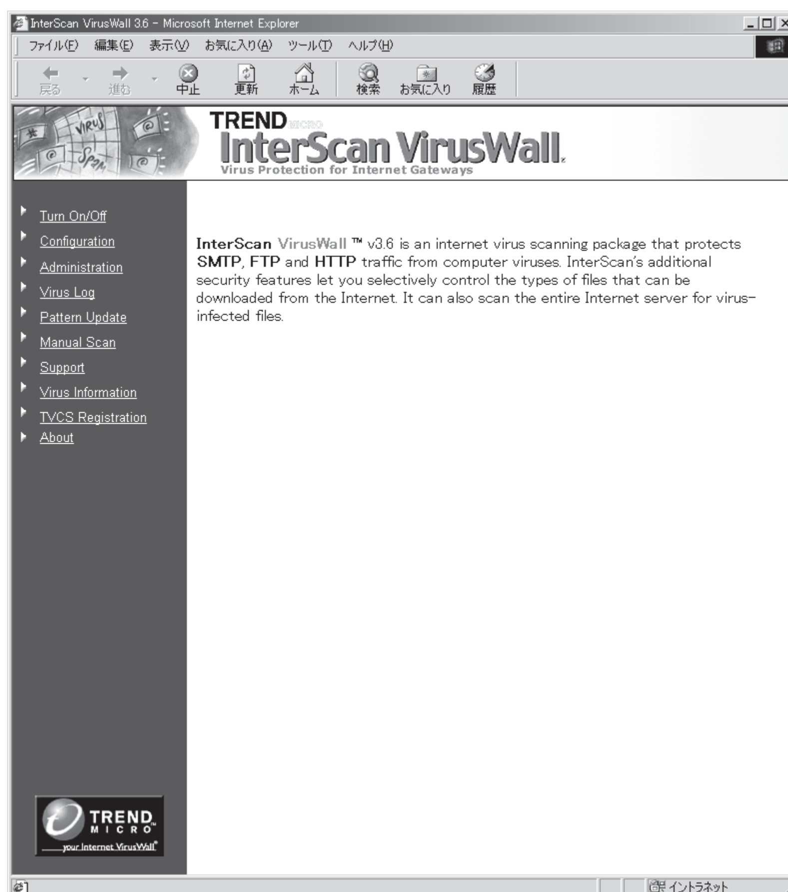
SSHはクライアント・サーバ間の通信内容を暗号化し、安全性の高い通信を提供します。

## リモートログイン(telnetd)

TELNETはリモートログインサービスを提供します。

## ウイルスチェック

ウイルスチェックのための各種設定を行います。[ウイルスチェック]をクリックすると、InterScan VirusWallの設定画面(InterScanコンソール)が開きます。
設定の詳細については、基本ライセンスに添付の「InterScan VirusWall 管理者ガイド」を参照してください。



# システム

Management Console 画面左の[システム]アイコンをクリックすると[システム]画面が表示されます。







## システム停止／再起動

[システム]画面の[■ システム停止／再起動]一覧から[システムの停止]、および[システムの再起動]を実行できます。




### システムの停止

[システムの停止]ボタンをクリックすると「システムを停止します。よろしいですか？」とダイアログボックスが表示されるので、停止する場合は[はい]ボタンを、停止したくない場合は[キャンセル]ボタンをクリックしてください。
[はい]ボタンをクリックすると、[キャンセル]ボタンと[即停止]ボタンが表示されます。停止したくない場合は[キャンセル]ボタンを、10秒待たずに停止したい場合は[即停止]ボタンをクリックしてください。どのボタンもクリックしなかった場合は、10秒後に終了処理をした後、システムの電源がOFFになります。本体前面のPOWERランプが消灯したことを確認してください。

### システムの再起動

[システムの再起動]ボタンをクリックすると「システムを再起動します。よろしいですか？」とダイアログボックスが表示されるので、再起動する場合は[はい]ボタンを、再起動したくない場合は[キャンセル]ボタンをクリックしてください。
[はい]ボタンをクリックすると、[キャンセル]ボタンと[即再起動]ボタンが表示されます。再起動したくない場合は[キャンセル]ボタンを、10秒待たずに再起動したい場合は[即再起動]ボタンをクリックしてください。どのボタンもクリックしなかった場合は、10秒後に終了処理をした後、システムがいったん停止し、再起動します。

# 状　態

「システム」画面の「■ 状態」一覧から以下のシステム状態を確認できます。詳しくはManagement Consoleのオンラインヘルプを参照してください。




- **CPU／メモリ使用状況**

  メモリの使用状況とCPUの使用状況をグラフと数値で表示します。約10秒ごとに最新の情報に表示が更新されます。

- **プロセス実行状況**

  現在実行中のプロセスの一覧を表示します。

- **名前解決診断**

  DNSサーバの動作を確認することができます。

- **ファイル共有接続情報**

  ファイル共有の状況（共有名、ユーザー、クライアント、プロセスID、接続日時）を各共有名ごとに表示します。約5秒ごとに最新の情報に表示が更新されます。

- **ネットワーク利用状況**

  ネットワーク利用状況を各ネットワークインタフェースごとに表示します。約5秒ごとに最新の情報に表示を更新することができます。

- **ネットワーク接続状況**

  各ポートごとの接続状況を表示します。約5秒ごとに最新の情報に表示を更新することができます。

- **経路情報**

  「相手ホスト:」にホスト名を入力して「表示」ボタンをクリックすると、そのホストまでの経路情報を表示します。

# その他

「システム」画面の「■ その他」一覧から、以下の機能を利用できます。詳しくはManagement Consoleのオンラインヘルプを参照してください。




● **システム情報**

装置に割り当てたホスト名、およびOSに関する情報が表示されます。

● **ネットワーク**

ネットワーク設定を行うことができます。

● **バックアップ／リストア**

ファイルのバックアップの設定を行います。この後の「バックアップ」、「リストア」、「テープバックアップ/リストア」も参照してください。

● **管理者パスワード**

管理者「admin」のパスワードを変更します。各パスワードは6文字以上8文字以下の半角英数文字(半角記号を含む)を指定してください。管理者パスワードは、rootのパスワードと連動しています。

● **ログ管理**

システムのログファイルの表示およびファイルのローテーションの設定を、各ログファイルごとに行うことができます。80ページを参照してください。

● **時刻設定**

システムの時刻を設定できます。

● **セキュリティ**

パケットのフィルタリング、TCP Wrapperの設定を行います。




ロードバランスクラスタ構成の場合は、パケットのフィルタリング機能は使用できません。

● **システム起動待ち時間**

通常は設定変更の必要はありません。クラスタ構成にする場合に必要に応じて設定してください。

## バックアップ

システムの故障、設定の誤った変更など思わぬトラブルからスムーズに復旧するために定期的にシステムのファイルのバックアップをとっておくことを強く推奨します。
バックアップしておいたファイルを「リストア」することによってバックアップを作成した時点の状態へシステムを復元することができるようになります。
本装置では、システム内のファイルを以下の7つのグループに分類して、その各グループごとにファイルのバックアップのとり方を制御することができます。

■ バックアップ/リストア一覧

| 操作 | 説明 | 世代数 | タイミング |
|---|---|---|---|
| バックアップ 編集 リストア | システム全ファイル(ユーザ環境復旧) | 5 | バックアップしない |
| バックアップ 編集 リストア | システム、各種サーバの設定ファイル | 5 | バックアップしない |
| バックアップ 編集 リストア | ユーザのホームディレクトリ | 5 | バックアップしない |
| バックアップ 編集 リストア | メールスプール | 5 | バックアップしない |
| バックアップ 編集 リストア | メーリングリスト | 5 | バックアップしない |
| バックアップ 編集 リストア | 各種ログファイル | 5 | バックアップしない |
| バックアップ 編集 リストア | ディレクトリ指定 | 5 | バックアップしない |
| テープバックアップ | | | |
| テープリストア | | | |

- システム全ファイル(ユーザ環境復旧)
- システム、各種サーバの設定ファイル
- ユーザーのホームディレクトリ
- メールスプール
- メーリングリスト
- 各種ログファイル
- ディレクトリ指定



**ディレクトリ指定のバックアップは他の項目と異なり、実際にフルパスを記述してバックアップをとります。他の項目は、パスは自動的に決まっています。**



「システム全ファイル(ユーザ環境復旧)」は、以下の項目をすべて指定することと同じです。

— システム、各種サーバの設定ファイル
— ユーザのホームディレクトリ
— メールスプール
— メーリングリスト

各ボタンの機能は次のとおりです([テープバックアップ]と[テープリストア]は本製品ではサポートしていません)。

- **[編集] ボタン**

  バックアップ方法や内容、スケジューリングなどを設定します。

- **[バックアップ] ボタン**

  あらかじめ[編集]ボタンで編集した内容に基づいたバックアップを即実行します。[編集]ボタンをクリックしたときに表示される編集画面の[即実行]ボタンと同じ機能を持っています。

- **[リストア] ボタン**

  あらかじめバックアップしておいた内容を、リストアします。

初期状態では、いずれのグループも「バックアップしない」設定になっています。お客様の環境にあわせて各グループのファイルのバックアップを設定してください。
本装置では各グループに対して「ローカルディスク」と「Samba」の2種類のバックアップ方法を指定することができます。

それぞれの方法には、以下のような特徴があります。

- **ローカルディスク**

  内蔵ハードディスクの別の場所にバックアップをとります。

  ［長所］　ユーザーの設定がほとんど不要で簡単です。

  ［短所］　内蔵ハードディスクがクラッシュすると復元できません。

- Samba

  LANに接続されているWindowsマシンのディスクにバックアップをとります。

  ［長所］　ハードディスクがクラッシュしても復元できます。

  ［短所］　あらかじめWindowsマシンに共有の設定をしておく必要があります。




- **システム、各種サーバの設定ファイルは必ずバックアップを設定してください。**
- **ローカルディスクへのバックアップは、他の方法に比べてリストアできない可能性が高くなります。なるべくSambaでバックアップをとるようにしてください。**

以下に「Samba」を使用したバックアップの方法について説明します。

## 「Samba」によるバックアップ設定の例




**バックアップファイルの中には利用者のメールなどのプライベートな情報やセキュリティに関する情報などが含まれるため、バックアップのためのフォルダ(share)の読み取り、変更の権限などのセキュリティの設定には十分注意してください。(Windows 98/95ではセキュリティの設定ができません。そのためお客様の情報が利用者に盗まれる可能性があります)**

バックアップ作業のためのユーザーは既存のユーザーでもかまいませんが、以下の説明では「user」というユーザーをあらかじめ「workgroup」内に所属するマシン「winpc」上に用意し、「share」という共有フォルダにバックアップするという前提で説明します。
次の順序で設定します。

1. Windowsマシンの共有フォルダの作成(OSの説明書やオンラインヘルプを参照してください)
2. システムのバックアップファイルグループの設定
3. バックアップの実行

システムの管理

### システムのバックアップファイルグループの設定

ここでは例として[システム、各種サーバの設定ファイル]グループのバックアップの設定手順を説明します(他のグループも操作方法は同じです)。

1. [システム]画面の[■その他]一覧の[バックアップ/リストア]ボタンをクリックする。

   バックアップの設定画面が表示されます。




2. 一覧の[システム、各種サーバの設定ファイル]の左側の[編集]ボタンをクリックする。

   バックアップ設定の[編集]画面が表示されます。

■ バックアップ/リストア一覧

| 操作 | 説明 | 世代数 | タイミング |
|---|---|---|---|
| バックアップ 編集 リストア | システム全ファイル(ユーザ環境復旧) | 5 | バックアップしない |
| バックアップ 編集 リストア | システム、各種サーバの設定ファイル | 5 | バックアップしない |
| バックアップ 編集 リストア | ユーザのホームディレクトリ | 5 | バックアップしない |
| バックアップ 編集 リストア | メールスプール | 5 | バックアップしない |
| バックアップ 編集 リストア | メーリングリスト | 5 | バックアップしない |
| バックアップ 編集 リストア | 各種ログファイル | 5 | バックアップしない |
| バックアップ 編集 リストア | ディレクトリ指定 | 5 | バックアップしない |

テープバックアップ
テープリストア

3. [編集]画面のバックアップ方式の[Samba]をクリックして選択する。

■ 編集

説明: システム、各種サーバの設定ファイル
世代: 5
スケジュール: 毎日 / 毎週 日曜日 / 毎月 日 / バックアップしない
時刻: 0 時 0 分にバックアップ
バックアップ方式:
ローカルディスクディレクトリ: /var/backup
Samba ワークグループ名:(NTドメイン名)
Windowsマシン名:
共有名:
ユーザ名:
パスワード:
設定 即実行

4. 「Windowsマシンの共有フォルダの作成」で行った設定に従って以下の項目を入力する。

- ［ワークグループ名(NTドメイン名)］: workgroup
- ［Windowsマシン名］: winpc
- ［共有名］: share
- ［ユーザ名］: user
- ［パスワード］: ユーザー「user」のパスワード

5. 正しく設定されていることを確認するため［即実行］ボタンをクリックしてバックアップを実行する。

   正しく実行された場合は操作結果通知が表示されます。



正しく操作結果通知が表示されない場合はWindowsマシンの共有の設定とバックアップ方式の設定が正しいかどうか確認してください。



この［即実行］ボタンを使うことで、任意のタイミングで手動でバックアップを行うことができます。

6. ［戻る］ボタンをクリックする。

定期的に自動的にバックアップを行うには以下の設定を続けて行ってください。

7. ［編集］画面で［世代］、［スケジュール］、［時刻］を指定する。

   右図の例では［毎週月曜日の朝9:00にバックアップをとる。バックアップファイルは3世代分残す］設定を行う場合を示しています。

   **世代**

   バックアップファイルをいくつ残すかを指定します。バックアップファイルを保管するディスクの容量と、必要性に応じて指定してください。世代を1にすると、バックアップを実行するたびに前回のバックアップ内容を上書きすることになります。

**スケジュール**

バックアップを実行する日を指定します。[毎日][毎週][毎月]および[バックアップしない]から選択します。

[毎週]を指定する場合は右側の曜日も選択してください。

[毎月]を指定する場合は右側のテキストボックスに日付を入力してください

いずれの場合も指定した日付に本体の電源とバックアップ先のマシンの電源が入っていない場合はバックアップできないので注意してください。

**時刻**

[スケジュール]で指定した日付の何時何分にバックアップを行うかを指定します。24時間制で入力してください。指定した時刻に本体の電源とバックアップ先のマシンの電源がONになっていない場合はバックアップできないので注意してください。

8. [編集]画面下の[設定]ボタンをクリックする。

■ 編集
説明: システム、各種サーバの設定ファイル
世代: 3
スケジュール: 毎日
毎週 月曜日
毎月 日
バックアップしない
時刻: 9 時 0 分にバックアップ
バックアップ方式:
ローカルディスクディレクトリ: /var/backup
Samba ワークグループ名:(NTドメイン名) workgroup
Windowsマシン名: winpc
共有名: share
ユーザ名: user
スワード: *******
設定 即実行

以上で、定期的に自動的にバックアップを行う設定は完了です。

## バックアップの実行

バックアップの処理は「システムのバックアップファイルグループの設定」で指定した日時に自動的に実行されます。指定した日時に本体とバックアップファイルをとるマシンの両方の電源がONになっていなければいけません。

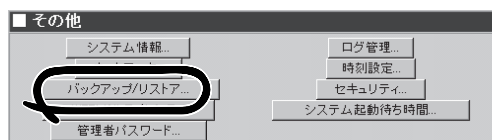
## リストア

7つの各バックアップファイルグループごとにバックアップファイルをシステムにリストアすることができます。

ここでは例として[バックアップ手順の例]で設定を行った[システム、各種サーバの設定ファイル]グループのファイルのバックアップファイルをシステムにリストアする際の操作手順の例を説明します。

1. [システム]画面の[■その他]一覧の[バックアップ/リストア]ボタンをクリックする。

   バックアップの設定画面が表示されます。

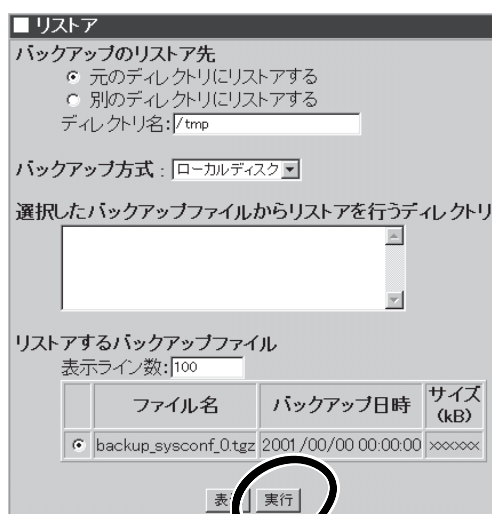



2. 一覧の[システム、各種サーバの設定ファイル]の左側の[リストア]ボタンをクリックする。

   リストアするバックアップファイルの一覧が表示されます。

3. [■リストア]で[バックアップのリストア先]、[バックアップ方式]、[リストアするバックアップファイル]を指定し、[実行]ボタンをクリックする。

   [リストアするバックアップファイル]は、通常はデフォルトで最も新しいバックアップファイルが選択されています。そのまま実行すれば、最新のバックアップがリストアされます。




4. 「リストアします。よろしいですか?」というダイアログが表示されます。リストアする場合は[OK]ボタンを、リストアしない場合は[キャンセル]ボタンをクリックしてください。




選択したバックアップファイルの内容を参照したい場合は、[表示]ボタンをクリックしてください。

## ログ管理

システムファイルのログファイルの表示やファイルのローテーションの設定を各ログファイルごとに行うことができます。
各ログファイルの[設定]ボタンをクリックすると、そのログファイルのローテションの設定を行います。
各ログファイルの[表示]ボタンをクリックすると、そのログファイルの世代一覧が表示されます。表示したいものを選択して[表示]ボタンをクリックするとログファイルの内容が表示されます。
[全削除]ボタンをクリックすると、カレントログファイルを除くすべてのローテートログファイルが削除されます。